

平成23年度 「外部有識者会議」報告書



平成24年3月
福井工業高等専門学校

まえがき

本校の外部有識者会議は、本校の教育研究目標計画、自己評価その他学校運営に関する重要事項について学外有識者に審議、評価をお願いし、また、助言・勧告をいただくために設けられており、これまで本校にとって大きな役割を果たしてきた。

今年度は、全国の国立高専が一つにまとまって法人化してから8年目に当たる。5年ごとに策定される中期目標・計画期間の第一期目を終え、第2ステージの3年目を迎えている。

我が国に未曾有の被害をもたらした東日本大震災とそれに引き続く福島原発事故は、1年経った今も被災した人々に不自由な生活を強いるだけでなく、国民生活や産業活動全体に大きな影を落としている。

また、ギリシャの財政危機に端を発したユーロ危機は世界経済に大きな影響を与えており、我が国でも、これをきっかけに円高が進行し、貿易赤字、デフレ不況、厳しい雇用環境と困難な情勢が続いている。

本校では、平成20年度から校舎の全面改修工事に着手し、これまでに本館、機械工学科棟、電気電子工学科棟、物質工学科棟及び管理棟の工事が完了した。来年度の政府予算案には、環境都市工学科棟の改修が盛り込まれており、予算が成立後、早速工事に取りかかる予定である。

また、来年度は、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審することとなっており、現在、そのための準備を進めている。

このような状況の中、平成24年2月に平成23年度外部有識者会議を開催し、各委員から貴重なご意見、ご提言をいただいた。

今回いただいたご意見、ご提言については、学校関係者一同しっかりと胸に受け止め、今後の福井高専の運営や活動にできるだけ反映させていくよう努めたい。

ご多忙の中、福井高専のために色々のご尽力賜りました委員の方々に厚くお礼申し上げます。

福井工業高等専門学校長

池 田 大 祐

目 次

まえがき

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則	1
II. 外部有識者会議委員名簿	2
III. 外部有識者会議日程	3
IV. 本校出席者名簿	4
V. 講評	5
VI. 参考資料	9

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則

平成16年5月13日規則第21号

改正 平成16年 6月 3日規則第23号 平成19年 2月 1日規則第 1号
平成21年 3月30日規則第2号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校外部有識者会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 会議は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 会議の議長は、委員の互選により定める。

(会議の開催)

第5条 会議は、校長が招集する。

2 会議は、年1回以上開催するものとする。

3 会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、総務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則（平成21年3月30日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

Ⅱ. 外部有識者会議委員名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

にい はら こう いち
新 原 皓 一 長岡技術科学大学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

お ぐら ひさ かず
小 倉 久 和 福井大学工学部長・工学研究科長

(本校の所在する地域の教育関係者)

しま ざき てつ お
島 寄 徹 夫 鯖江市小中学校校長会会長
(鯖江市東陽中学校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

みや ざき こう じ
宮 崎 孝 司 福井県工業技術センター所長

(産業界の有識者)

の むら かず え
野 村 一 榮 鯖江商工会議所会頭

(産業界の有識者)

み の わ たけ ひさ
美 濃 輪 武 久 信越化学工業(株)磁性材料研究所長

(報道機関の有識者)

やま した ひろ み
山 下 裕 己 (株)福井新聞社 論説主幹

Ⅲ. 外部有識者会議日程

1. 日 時 平成24年2月24日（金）13：30～16：50
2. 場 所 福井高専 大会議室
3. 日 程
 - 13：30 【開 会】 校長挨拶，出席者の紹介，議長選出
 - 13：45 【1. 本校の概要等説明】
昨年度の講評（提言）に対する回答について
本校の概要説明等について
・・・・・・・・企画室長・教務主事・専攻科長・学生主事・寮務主事
 - 14：50 — 休 憩 —
 - 15：05 【2. 全体討論・質疑応答】
 - 15：45 — 休 憩 — （委員による講評（提言）の打ち合わせ）
 - 16：00 【3. 講評・提言】
 - 16：40 【閉 会】 校長謝辞
4. 提示資料
 1. 平成22年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言等
 2. 福井工業高等専門学校 平成23年度年度計画進捗状況
 3. 概要説明資料

<参考資料>

- ① 自己点検・評価報告書
- ② 学校要覧 2011
- ③ 学生便覧（平成23年度版）
- ④ シラバス（本科，専攻科）（平成23年度版）
- ⑤ 福井高専の歩き方 — 2012 College Guide —
- ⑥ 専攻科パンフレット 2011
- ⑦ JOINT 2011 —地域連携テクノセンター活動紹介誌—
- ⑧ 特別教育研究費（高等専門学校改革推進経費）
「女子中学生の高専進学への理解増進と高ブランド戦略による志願者確保」最終報告書（平成23年3月）
- ⑨ 女子中学生向けパンフレット「みんなで高専しよッ！」

IV. 本校出席者名簿

校 長	池 田 大 祐	
教務主事 (副校長)	上 島 晃 智	(物質工学科教授)
学生主事 (副校長)	藤 田 克 志	(機械工学科教授)
寮務主事 (副校長)	坪 川 武 弘	(一般科目教室教授)
企画室長 (副校長)	田 中 嘉津彦	(機械工学科教授)
専攻科長 (校長補佐)	阿 部 孝 弘	(環境都市工学科教授)
JABEE委員長		
機械工学科長	加 藤 寛 敬	
電気電子工学科長	川 本 昂	
電子情報工学科長	蘆 田 昇	
総合情報処理センター長		
物質工学科長		
教育システム評価委員長	津 田 良 弘	
創造教育開発センター長		
環境都市工学科長	廣 部 英 一	
一般科目教室 (自然科学系) 主任	山 本 裕 之	
一般科目教室 (人文社会科学系) 主任	廣 重 準四朗	
図 書 館 長	小 寺 光 雄	(一般科目教室教授)
地域連携テクノセンター長	山 田 幹 雄	(環境都市工学科教授)
教育研究支援センター長	前 川 公 男	(電子情報工学科教授)
事 務 部 長	根 本 直 之	
総 務 課 長	鍛 治 肇	
学 生 課 長	橘 田 良 一	

V. 講評

[新原委員]

概要説明を聞いて、それぞれの分野で大変活躍されていると思う。

ただし、未来に対する志向、未来に対する議論がどこでも言えなくなっているのではないか。

若者を育てる教育機関にあっては堂々と10年先、20年先の夢を語ることが必要だと考える。つまり、それは正しいとか、間違っているとかではなく、学生にもそういった夢を持てるような雰囲気を作って欲しいということである。今後、伸びていく可能性を秘めた学生が20年、30年後に最高レベルに達するためには、常にチャレンジしていかなければならず、その基礎を創るための手助けをすることが教育ではないのか、教育とは未来を創るものだと思う。

したがって、学生がもっと夢を持てる教育への取り組みをお願いしたい。



長岡技術科学大学
学長 新原 皓一 氏

[島寄委員]

福井高専を含め各高校へ生徒を送り出している立場からすると、生徒たちがどのように育っていくかが気になっている。自己点検・評価報告書から、子供、保護者及び中学校の先生の意見を取り入れた教育の実施が読み取れず、不足しているような印象を持った。

また、女子学生を増やすだけでなく、彼女たちが5年後どこへ就職するのか、地元に残るのかということも含め、子供たちがキャリアを持った素晴らしい大人として生きていけるような、ご指導をお願いしたい。



鯖江市小中学校校長会
会長 島寄 徹夫 氏

[野村委員]

福井高専の運営は素晴らしいと思うが、今後、5年先、10年先のことを考えると、創造性、自主性等を含む活動性は女性の方があるように思われる。これからの企業は女性の管理職の登用が増加し、デザイン性やファッション性等を取り込んだものづくりがなされることが予想される。従って、福井高専でも女子学生の割合をどんどん増やして頂けると、社会も更に良い方向に変わっていくのではないかと思う。



鯖江商工会議所
会頭 野村 一榮 氏

[美濃輪委員]

前回と同様、福井高専の皆さんは各分野で頑張っていることが理解できた。

しかし、そのよう中で部門間の連携が粗となってしまうように注意願いたい。

また、勉強は学校を卒業すれば終わりではなく、卒業しても継続して勉強することの大切さを、つまり生涯を通して勉強していくことが重要であることを、ここでの教育を通してご指導願いたい。卒業後はどこへ進もうが、様々な所で勉強していくことが、日本の科学技術の発展に際しては重要であるため、是非ともそのようなご指導をお願いしたい。



信越化学工業（株）磁性材料研究所
所長 美濃輪 武久 氏

【山下委員】

私は、昨今の経済状況とか日本の状況を鑑みるならば、創造性とかデザインマインドの育成に力を入れなければならないと考えている。創造性やデザインマインドは、手取り足取りして教えるのでは身につかないと思う。大きい大学等では縛りが多く融通が利かない部分もあるが、高専はそういうことに挑戦するには良い環境が整備されているのではないかと思ひ、期待をしている。

デザインマインドとかイマジネーションとかの、わかりにくい部分を子供たちに教育指導する方法を検討し、取り組んでいただきたい。



(株)福井新聞社
論説主幹 山下 裕己 氏

【小倉議長】

創造性の問題が大きいと思う。福井高専では非常にたくさんの取り組みが実施されているが、学生の実践力、創造力、イマジネーションがどのように発展していくのかについては、やはり内向き志向と言われる傾向が学生にはあるように思う。大学の学生も内向き志向のために与えられたことばかり行い、自主的に行う学生は少ないと感じている。同様なことが福井高専の中でもあるのではないかと思われるが、そのような課題が報告から見えなかった。

伸びる学生は伸ばす、そうでない学生は手間をもっとかける、そういったことに取り組めるのは大学等よりも縛りが少ない高専ならではないかと思われるため、内向き志向にならないための、いろいろな対応や取り組みを実施していただきたい。



福井大学 工学部長・工学研究科長
小倉 久和 氏

VI. 参 考 资 料

福井高専外部有識者会議

本校の教育と研究の現状

企画室

平成24年2月24日



福井工業高等専門学校



教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
2. 個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する。
3. 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。
4. 健康の増進に努め、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、かつ適度な資性のかん養を図る。



沿革

昭和40年 福井工業高等専門学校設置
(機械工学科、電気工学科、工業化学科)
昭和45年 土木工学科を増設
昭和63年 電子情報工学科を増設
平成5年 土木工学科を環境都市工学科に改組
平成7年 工業化学科を物質工学科に改組
平成10年 専攻科(生産、環境システム工学の2専攻)
平成17年 電気工学科を電気電子工学科に改組

現在: 機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、
物質工学科、環境都市工学科
生産システム工学専攻、環境システム工学専攻

卒業・修了生: 本科 6,613名、専攻科 322名 (平成22年度末)
在籍学生数: 本科 992名(165名)、専攻科 54名(11名)



養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、
国際社会で活躍できる技術者



基本理念

1. 創造性豊かな人材を育成する。
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。



本科(準学士課程)学習・教育目標

- RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- RB 数学とその他の自然科学、および専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
- RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
- RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。



専攻科「環境生産システム工学」 学習・教育目標

- JA 地球的观点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対応できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
- JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
- JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

福井高専

本校の特徴ある教育

① ものづくり教育の推進

低学年における独創性・創造性を育む教育（ものづくり科学，3単位）の導入

平成17年度からの工学基礎コースの導入に併せて、PBL型学習の「ものづくり科学(3単位)」を導入し、低学年においても、ものづくり教育を行っている。



福井高専

平成23年度卒業・修了予定者の 就職・進学状況

	卒業・修了 予定者数	就職 予定者	進学 予定者	その他	求人倍率
本科	182名	101名	72名	9名	17.6倍
専攻科	27名	23名	4名	0名	18.7倍

福井高専

② 地域連携協定による地域支援の推進

和紙産業との共同研究、インターンシップ

関係する県立町は、平安時代より和紙製造地であり、全国屈指の産地となっており、「和紙特産地」として著名である。本校では、和紙材料の保存方法と、資源の微生物を用いた生産方法に関する共同研究を行っている。また、これらの研究を学生がインターンシップとして参加し、教育的にも成果を還元する。



福井高専

特別教育研究費などの採択状況

- 平成23年度高専機構特別教育研究経費(継続事業)「高専連携による、アントレプレナーシップ醸成・キャリア教育の進展」
- 平成23年度高専機構企業技術者等活用プログラム「ICTと地域とを融合させる共同教育の展開」
- 平成23年度経済産業省原子力人材育成プログラム 補助事業「原子力関連技術者教育のくさび形教育制度への導入と実践」
- 平成23年度機関横断的な人材育成事業「機関連携による防災・安全教育を重視した実践的原子力基礎技術者育成の実施」

その他

- 本校と長岡技術科学大学との戦略的技術者育成アド/バンスコース事業「社会の多様化とグローバル化に対応した戦略的技術者育成」

福井高専

眼鏡産業との共同研究、アイデア募集

福井市は世界で最も大きな眼鏡枠製造集積地帯となっており、眼鏡枠の国内生産額の94%以上を占め、生産額が100億円超となっている。本校では眼鏡に関するアイデアコンテストである、「めがkawaii ワクコンテスト」を平成10年度より全国の生徒・学生対象に開催している。また、眼鏡枠材料に関する共同研究も行っている。



福井高専

③ キャリア教育の実施

**平成23年度高専機構特別教育研究経費(継続事業)
「志事活用による、アントレプレナーシップ養成・キャリア教育の進展」**

起業をめざす学生や卒業生・一般社会人の起業を支援するため、ビジネススキルの習得方法や専門知識を教育する総合的なキャリア教育を行っている。

アントレプレナーサポートセンターでの授業の様子 登録人材状況調査のシステム画面

地域貢献と広報活動

① 各種理科コンテストの実施

1. マグネットコンテスト

マグネットコンテスト表彰式 (014.1.16)

応募総数 1,045件
 化学・物理部門 1,177件
 建築・土木部門 133件
 環境・エネルギー部門 238件

平成23年度高専機構企業技術者等活用プログラム 「ICTと地域とを融合させる共同教育の展開」

情報関連技術を利用した実践的な技術に加えて、3次元CADやVR(バーチャルリアリティ)の活用と習得を目標とした取組みを、企業技術者との共同教育を展開して実施している。

ICT活用者育成のための講習会の様子 3D-VR取組の様子

① 各種理科コンテストの実施

2. さばえものがたりクイズコンテスト

さばえものがたりクイズコンテスト表彰式 (014.1.16)

応募総数 1,876件
 賞賞北部門 500件
 デザイン部門 969件



① 各種理科コンテストの実施

3. ふくい防災マッポコンテスト

表彰式(1人賞) 40件
 建築内部門 21件
 応用部門 39件

4. 福岡市中学生ロボットコンテスト

5. ふくい防災マッポコンテスト

6. 島根県中学生ロボットコンテスト

表彰式(1人賞) 44件
 リーン部門 21件
 建築部門 39件

② 出前授業、公開講座等の実施 (出前授業24件、公開講座19件)



サイエンスクラブによる福江市立美術館および
福江市民ホールつづじでの公開講座(9月4日の夜4時)

本校における主な課題

- 1. 入学志願者の確保**
県内の15歳就学人口は減少する傾向があり、入試倍率と入学者の質を維持・向上するためには、志願者数の増加を図る必要がある。
- 2. 外部競争資金の獲得**
最近、科学研究費補助金を始めとする外部競争的資金の採択件数・獲得金額は低下傾向にあり、これらの補助金とあわせて文部科学省や科学技術振興機構等による外部競争的資金の獲得増額に向けた努力が一層求められている。
- 3. 国際交流事業**
教育理念である「国際社会に対応する教育」を行うため、バラット大学と相互友好協定を締結し、異文化交流に努めるとともに、高専機構主催の海外インターンシップや国際会議に学生を送迎している。本校に選した国際交流の在り方の議論を深め、国際感覚育成のための教育体制の強化が求められる。

③ クラシックコンサートの開催



(演奏)
ドビュッシー「鳥の森の囀り」
ウラースラー「春の恋しみ、雲の喜び」 独奏

・参加者数 430名(本校学生190名、一般240名)
・9割以上の参加者から「満足」以上の回答を得た。

入学志願者の確保
女子中学生と保護者を対象にした体験学習と懇談会



目的の内容:
女子学生主導で、5学科とサイエンスクラブの特色的なものがづくり・アモ実際の体験と、女子学生との懇談会

参加者数:
中学生: 67名
1年生(4名)、2年生(5名)、
3年生(58名)
保護者: 28名

県外からも5組の親子が参加

④ 地域コミュニティ季刊誌とFMラジオによる情報発信



発行部「アレイノ」(地域版)での
本校紹介の掲載(2012年vol. 24)

女子中学生と保護者を対象にした体験学習と懇談会



アンケートの回答
-体験学習内容に興味を持ったとの回答率は約85%
-約80%の参加者が、将来進路分野に進みたいと回答

H24年度入学希望者試験への出席者数: 34名
(女子の出席者数: 29名)

外部評価の受賞

(1) 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価

平成17年 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審し、指摘事項なしとの評価を受ける。

平成24年度には、第二回目の機関別認証評価を受審予定。

(2) 日本技術者教育認定機構

平成17年5月に、県内の理系高等教育機関として初めて日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定校となった。

平成18年11月に中間審査を、平成21年10月には最終審査を受審した。平成24年度には、中間審査を受審予定。

福井県立

教務関係



福井高専(本科)の教育の特長

- ・くさび形教育(専門科目が学年と共に増加)
- ・担任がきめ細やかに指導
- ・体験型科目(実験・実習・演習・創成科目)やITスキルに関する教育が充実
- ・1年:混合学級(内1クラスは工学基礎コース)創成科目としての「ものづくり科学」の導入
- ・2～5年:学科に分かれ工学・理系の基礎と実践力並びに「問題解決能力」を身につける。

M 機械工学科 E 電気電子工学科 EI 電子情報工学科
C 物質工学科 B 環境都市工学科

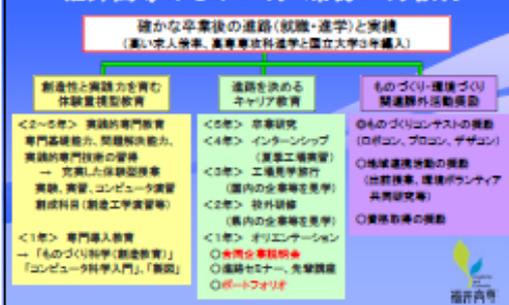


教務関係の取組(平成17～23年度)

- ・平成17年度:工学基礎コース制度開始
:大学評価・学位授与機構機関別認定評価受審
- ・平成18年度:100分授業開始・学修単位の導入
:JABEE中間審査受審、学習到達度試験開始
- ・平成19年度:創造教育開発センターの設置
- ・平成20年度:50分・7限体制開始、校舎改修工事開始
- ・平成21年度:JABEE継続審査受審、校舎改修工事完成
新型インフルエンザへの対応
- ・平成22年度:達成度評価の導入
- ・平成23年度:特別支援室の導入、国際交流の活性化



福井高専のものづくり・環境づくり教育



教育制度改善とPDCAサイクル

- ・基本理念、学習・教育目標の制定
- ・アドミッションポリシーの制定
- ・シラバスの充実
- ・エビデンス(成績評価資料)の保管
- ・学生アンケート(授業・教育環境)等の定期的実施
- ・FD活動の充実、公開授業の実施
- ・教育点検評価システムの確立
- ・90分から100分授業体制へ移行
- ・達成度の自己評価



教務関係の取組(平成23年度)

- ・原子力人材育成教育の開始
経産省並びに文部科学省の原子力人材育成プログラム
- ・長岡技術大との協働教育事業開始
戦略的技術者育成アドバンスコース
- ・機関別認定評価受審に向けた対応
学習・教育目標の改正、達成度評価シート等整備
- ・特別支援教育への対応
特別支援WGの実績を基に特別支援室を設置
- ・起業家人材育成のためのプログラム
高専機構の特別研究経費で育成支援
- ・国際交流活性化に向けた取組み



経済産業省と文科省の「原子力人材育成プログラム」
福井高専原子力地域人材プログラム
 <原子力関連機関・大学等と連携した共同教育プログラム>
 ①エネルギー教育推進 ②インターンシップ
 ③特別講座 ④特別講演会
 ⑤ワークショップ

原子力分野への就職状況

年	合計	電力会社	原子力製造企業
20	5	4	1
21	6	5	1
22	10	8	2
23	14	12	2

研修風景、若狭湾エネルギー研究センター

入試行事②:キャンパスツアー(体験入学)
 8月6日(土):学科紹介・体験コーナー、交流コーナー
 参加者:計694名(生徒449名)

入試関係の取組(平成23年度)

- 入試に関する新入生へのアンケート調査
 - ◎志望動機調査① 進路に有利の調査
- 入試会場の5会場体制の継続と整備
 - 福井市会場(アオッサ)
- 志願者確保のためのPRの活性化
 - カレッジガイドのデジタルパンフ化
 - ◎キャンパスグッズ・マップの製作
 - 女子中学生向けのPRパンフレット作成
- 入試関連行事の見直し
 - ◎オープンキャンパスの充実(5・8・10月)
 - 女子中学生対象の理科系普及イベント継続

入試行事③:キャンパスリサーチ(学科別体験)
 10月15日(土):各学科別に1時間の体験学習会
 参加生徒:計232名
 オープンキャンパス(5月+8月+10月):**実参加生徒744名**

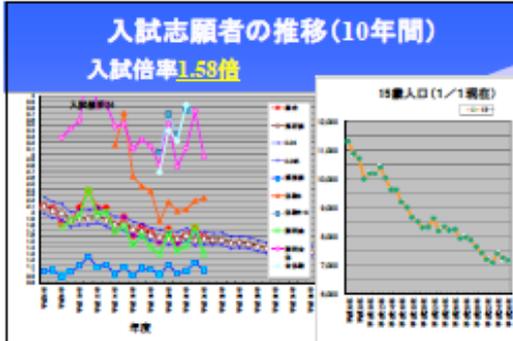
入試行事①:キャンパスウォーク
 5月7日(土):スタンプラリー形式校舎・施設の見学会

参加:計629名(生徒401名)
女子生徒151名!

入試行事④:入試説明会

10~11月 福井県内11回、滋賀県内5回実施

その他:各中学校主催の説明会に参加(16校)
 参加者:計291名(生徒258名)



留学生受け入れ状況

3年: マレーシア1名、モンゴル1名
 4年: マレーシア1名、モンゴル1名、バングラディッシュ1名
 5年: マレーシア2名、モンゴル1名

The block contains two photographs. The left photo shows a group of international students and staff members in front of a traditional Japanese building. The right photo shows a group of students and staff members gathered around a table during a meeting or event.

留学生研修会(京都, 1123.18) 留学生との懇談会(1124.1) 音高号

専攻科

学生数

在籍者数
1年生:27名 2年生:27名 計54名

修了者数
H22年度:29名(JABEE修了:29名)

志願者数
H23年度:46名 H24年度:33名

H24入学予定数 25名

専攻科制度

- ・本科の上にある**2年制**の教育課程
- ・高等専門学校における教育の基礎の上に、清新な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その**研究**を指導することを目的とする。
- ・H20年度には、認定専攻科における教育の実施状況等の審査を受審 => **満**の評価
- ・大学評価・学位授与機構の審査により**学士号**取得

・本科4、5年のカリキュラムを加えて、**技術者教育プログラム「環境生産システム工学」(JABEE認定プログラム:融合・複合分野)**を実施

就職・進学

求人倍率:2.3倍

就職先(県内就職:14名、県外就職9名)

増エンジニアリング、ヨシダ工業、KBセーレン、サカイエルコム、高木製作所、日本原子力発電、バイオニア、福井システムズ、北陸通信工業、酒井化学工業、武生特殊鋼材、大日コンサルタント、タナカフォーサイト、増永眼鏡、福井県、越前市、敦賀市 など

進学先

福井大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

専攻科制度

定員(1学年) 20名

生産システム工学専攻(12名)

出身:機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科

環境システム工学専攻(8名)

出身:物質工学科、環境都市工学科

修了条件

2年以上在学し、62単位以上の修得

「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成

カリキュラム

一般科目6単位開講、4単位以上修得

専門共通科目33単位開講、25単位以上修得

専門展開科目45単位開講、33単位以上修得

11科目で各2～3回の授業の非常勤講師
(技術士、弁理士、NPO理事長、OBの起業家等)

北陸技術交流テクノフェアでの技術シーズ発表会

約1ヶ月のインターンシップ(1年生全員)

H23年度 県内企業16社18名、県内官公庁1名

大学院4名、県外企業2名、財団2名

学習教育目標の改定

目指すエンジニア像「得意とする専門分野を持つことに加え、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者」

学習・教育目標大項目

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対応できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

JE 実践的能力および強固的思考能力を総合的に身に付ける。



海外へ

高専連携海外インターンシップ
平成23年9月4日から25日
(特)カネカ(マレーシア)

ISTS2011
(International Symposium on Technology for Sustainability 2011)




報告会の実施



H23専攻科年間行事

4/5 専攻科オリエンテーション
4/21 特別研究中間発表会(専攻科2年)
5/21 専攻科就職説明会
6/26 専攻科学力調査(前期)
7/1 学位授与説明会および単位互換制度説明会
7/29 知財セミナー「特許法の本質とその活用」
10/13 インターンシップ報告会
10/20,21 北陸技術交流テクノフェア参加・発表
11/5 大学院説明会
11/23 専攻科学力調査(後期)
12/2 JDream II 説明会(専攻科1年)
12/18 学位授与権限小論文試験
1/12 専攻科生との懇談会
2/16 特別研究発表会



特徴的な授業

特別研究
学外の技術者・研究者の前での発表

現代英語
外国人講師の前での英語プレゼンテーション
(TOEICスコアアップに加えて)

創造デザイン演習
エンジニアリング・デザイン能力の向上を目指す
問題発見、制約条件、複数案の提案
技術者と学生自らが接触する



成果の発表

技術シーズ発表会(北陸技術交流テクノフェア)
(福井県産業委員会)




協定

- ・福井大学大学院
ファイバー・アメリケイ工学専攻と学術協定
- ・北陸先端科学技術大学院大学
推薦入学に関する覚書
- ・早稲田大学大学院
情報生産システム研究科と推薦入学に関する覚書
- ・福井県内大学及び短期大学
単位互換協定
- ・放送大学
単位互換協定



課題

- ・学生数の減少 30人→27人→25人
- ・本科生へのPR
 - 7年間一貫教育・授業料が安い
 - 得意な専門分野の深化とその他の分野の吸収
 - 学士申請・大学卒としての就職・大学院への進学
 - 技術者資格(JABEE認定)
- ・本科との連携
 - 本科生のレベルアップが専攻科生のレベルアップに
 - 国際化への対応
 - 共同教育の奨励



学生指導関係



担任制度の充実

- 担任制度の継続
 - 学生に対するきめ細やかな対応
校門指導・校内巡回指導等
 - 「東海・北陸地区国立高等専門学校新任教員研修会」
※年度以降の担任予定者3名派遣、アドバイザー2名派遣
- 学年主任制度
 - 学年での情報交換、進路指導室との連携
キャリア教育活動の早期開始



学生指導の基本方針

1. 毎日、規則正しい生活を送ること
2. よき学生としてのマナー（社会規範）を身につけること
3. 自ら考え、自ら進んで学ぶ姿勢を示し、真摯な態度で学業に取り組むこと
4. 文化・芸術・スポーツに親しみ教養を高めること
5. 自身の将来像を描き、その実現のために計画的に行動すること



学生の指導（平成23年度） 全教職員で取り組んだ内容

- 校門指導・交通安全指導（駅前、学生駐車場）
 - 全教員、前期開始、後期開始（各約2週間）
- 校内巡視（節電パトロールを兼ねる）
 - 全教職員、7月～8月（空き教室等の安全チェック）
- 服育・安心安全の指導
 - TPOにあわせた服装指導
 - 新入生オリエンテーションで講演会
女子学生の制服のリニューアル



学生と担任制度

- 学生生活全般の指導（友人関係、生活行動の指導、授業出欠の点検、健康観察、各種届け出の指導等）
- 学業成績、悩み等についての個別指導
- 特別活動の企画・実施（1～3年）
- 学校行事の指導・企画・引率
 - 新入生オリエンテーション（1年）、遠足・文武会、校外研修（2年）、工場見学旅行（3年）、インターンシップ（4年）、卒業研究発表会（5年）
- 進路（就職・進学）指導
 - キャリア教育セミナー、就職セミナー、大学説明会など
- 保護者懇談会の実施（1～5年）



学校行事①：様々な体験活動の継続

- 新入生オリエンテーション（4月13、14日）
奥越高原青少年自然の家
伝統産業・地場産業体験



親文を深めあった新入生オリエンテーション

学校行事②:学生会活動の奨励

- ・ 体育祭 (4月30日)
- ・ 弁論大会 (10月13日)
- ・ 高専祭 (10月14~16日)



福井内務

安全管理と施設の充実

- ・ クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの改訂 & 年間練習計画の作成 (H16年4月より)
- ・ 課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備
AED(自動体外式除細動器)を学内4箇所[※]に設置
製氷機の設置(保健室、体育館)
各種施設の改修および耐震化工事等
- ・ クラブ活動の安全管理に関する講習
H17年~23年:
「AEDを用いた救急救命法実習」
平成23年度49名参加



AED講習風景
福井内務

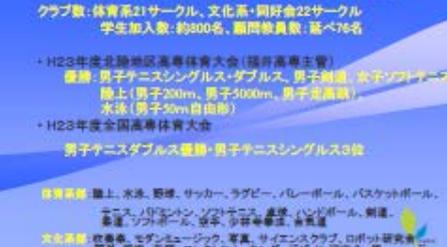
課外活動①:クラブ活動の奨励

クラブ数:体育系21サークル、文化系・同好会22サークル
学生加入数:約800名、顧問教員数:延べ76名

- ・ H23年度北陸地区高専体育大会(課外高専主催)
優勝:男子テニスシングルス・ダブルス、男子剣道、女子ソフトテニス
陸上(男子200m、男子5000m、男子走高跳)、
水泳(男子50m自由形)
- ・ H23年度全国高専体育大会
男子テニスダブルス優勝・男子テニスシングルス3位

体育系部:陸上、水泳、野球、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケケットボール、
テニス、バドミントン、ソフトテニス、卓球、バレーボール、剣道、
柔道、ソフトボール、空手、少林寺拳法、音楽部

文化系部:吹奏楽、モダンミュージック、写真、サイエンスクラブ、ロボット研究部、
囲碁・将棋、美術、エレクトロメーキング、デザイン研究部 等



福井内務

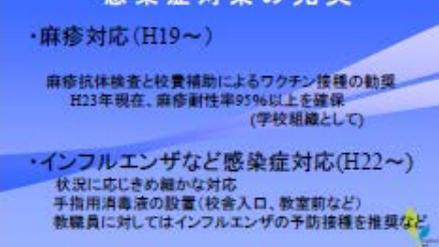
感染症対策の充実

- ・ 麻疹対応 (H19~)

麻疹抗体検査と校費補助によるワクチン接種の勧奨
H23年現在、麻疹耐性率95%以上を確保
(学校組織として)

- ・ インフルエンザなど感染症対応(H22~)

状況に応じきめ細かな対応
手指用消毒液の設置(校舎入口、教室前など)
教職員に対してはインフルエンザの予防接種を推奨など



福井内務

課外活動②:コンテストの奨励と支援

ものづくり・アイデア・技能のかん養

ロボコン、フロンコン、イザコン、
ふくいビジネスプランコンテスト、
歯磨きロボットコンテスト、
英語スピーチコンテスト(全国大会出場)等



福井内務

メンタルヘルス関連

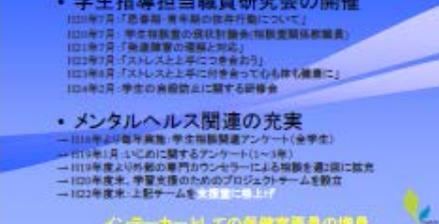
- ・ 学生指導担当職員研究会の開催

H20年7月「悲劇的」青年期の学生行動について、
H20年7月 学生相談室の認知対症療法相談室関係職員、
H21年7月「発達障害の理解と対応」、
H22年7月「ストレスと上手に付き合おう」、
H23年8月「ストレスと上手に付き合おう」心身休養講座に、
H24年2月「学生の自殺防止」に関する研究会

- ・ メンタルヘルス関連の充実

→ H16年度中期実施:学生指導関係アンケート(全学生)
→ H19年1月「いじめ」に関するアンケート(H1~3年)
→ H19年度より外部の専門カウンセラーによる相談を週2回に拡大
→ H20年度末、学習支援のためのプロジェクトチームを設立
→ H22年度末、上記チームを「支援室」に移す

インターカーとしての保健室委員の増員
各種講習会への積極参加



福井内務

ボランティア関連

- ・ ボランティア活動の奨励
 - R23年10月：第8回グリーン大作戦(112名参加)
 - R23年8月：福井県大学連携リーグ東日本大震災災害ボランティア(14名参加)
 - 基金活動：学生会



**5年一貫教育の利点を生かした
人格形成の人間教育を実践**

- * 全教職員一丸となつての学生指導
- * 担任制度の充実
- * クラブ活動・学生会活動への積極参加
- * 各種コンテストへの参加奨励
- * メンタルヘルス・安全管理・施設の充実
- * ボランティア活動への自主的参加



寮務関係

寮生数 平成24年2月1日現在

男子		女子		合計
182名		41名		223名

1年	2年	3年	4年	5年
52名	40名	46名	43名	42名

福井県	滋賀県	その他の県	マレーシア バングラデシュ モンゴル
144名	62名	9名	8名(女子1名)



福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮及び西寮の4棟からなる。男子寮として南・東・西の3寮、女子寮としては北寮が当てられている。定員は245名である。

学寮は遠隔地からの学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置され、全教員が交替で寮監として泊り、寮生との触れ合いを大切にする教育寮として位置付けられている。

学寮の施設-1-

南寮・・・男子73名(1階は留学生)

男子留学生棟(23年度7名)
調理室 シヤワールーム (LAN,空調完備)
チューター図書




西寮・・・男子24名
(4人部屋と1人部屋)

- ### 管理運営組織
- ・学寮運営委員会(10名)
 - ・寮務主事団(7名)
 - ・学生課学生生活係(2名)
 - ・寮監(平日2名)
 - ・寮生会役員(22名)

学寮の施設 -2-

北寮・・・女子41名(個室と2人部屋)

女子留学生棟(23年度1名)
調理室 シヤワールーム




東寮・・・男子85名(全個室)

学寮の施設—3—

付属施設
(管理事務室・寮監室・食堂・浴室)



食堂(空調完備) 浴室



1. 安心・安全な居住・学習環境の提供

(1) 施設・設備面での充実

- ◇ 学寮食堂厨房機器の更新
- ◇ 居室ドアの鍵錠点検
- ◇ 北寮防犯施設の増設

(各年度予算内での計画的な改修の一貫)

(2) 管理システムの改善

- ◇ 防災訓練の実施時期の変更(8/1)
- ◇ 保護者等外来者の寮内立ち入り許可証の発行
- ◇ 女子留学生への対応



女子寮のセキュリティ

カードキー式電子ロックと
インターホン





2. 充実した寮生活実現への指導と自治意識を育む支援

(1) 日常生活における教職員からの指導

- ◇ 寮監による毎日の点呼と巡回のシステム
- ◇ 寮生保護者懇談会と個人面談(7/16)
- ◇ 寮内の清掃等の当番の確認(当番表は寮生会)

(2) 寮生会が中心となる各種行事への支援

- ◇ 寮生総会(年間数回)
- ◇ 寮祭(寮生会最大のイベント、5/13～5/15)
- ◇ 短期留学生の歓迎会(10/3)
- ◇ 球技大会、クリスマス会、5年生を送る会
- ◇ 寮生会誌「日野」の発行



今年度の学寮運営の方針

1. 安心・安全な居住・学習環境の提供
(学寮の維持と管理)
2. 充実した寮生活実現への指導と自治意識を育む支援
(生活指導と寮生会支援)
3. 国際化への対応、開かれた寮としての取り組み



3. 国際性、開かれた寮としての取り組み

(1) 女子留学生の受け入れを開始

- ◇ マレーシアからの5年生の留学生を1名
- ◇ 受け入れの課題整理と他高専の調査を実施
- ◇ 冬休み期間中の寮母配置

(2) 短期国際留学生の受け入れを実施

- ◇ タイ(キングモンクット大学)から2名の女子学生
- ◇ 10月1ヶ月間、チューター配置
- ◇ 女子寮生の中での交流会を実施
- ◇ 受け入れの際のマニュアル作成(英文も)

(3) オープンキャンパス等での寮見学会の実施

- ◇ 3回実施、寮生による案内



今年度の行事

4月 開寮 入寮オリエンテーション 寮生活ガイダンス 寮生活委員会 寮生活大会	10月 短期国際留学生歓迎会 全寮制今年度生活大会 生活委員会
5月 キャンパスウォーク2011(学生見学) 運動 寮生活委員会 地場のボランティア(宮崎県)派遣	11月 スポーツ大会 クリスマス会 12月 クリスマス会 大規模修繕費調達 開寮(学生見学)
6月 学生部会-国際学生懇談会	1月 開寮 次年度入寮ガイダンス
7月 新開寮 オープンキャンパス(学生見学)	2月 次年度学生会役員選挙 寮生活委員会(寮生活委員)
8月 寮生活委員会(1年生) 寮生活委員会(寮生活委員) 開寮(寮生活委員)	3月 学生を送る会 学生を送る会(寮生活委員) 寮生活委員会(寮生活委員)
9月 女子の学生生活と国際交流のための保護学習 (学生見学) 開寮 寮生活委員会	3月 開寮 寮生活委員会



今後の課題

- 安心・安全のための施設整備の継続、必要な改修の実施
 - 夏消暑対策、エアコンの設置
 - 男子寮のセキュリティー
 - 施設の老朽化への対応
- 寮生の生活指導と寮生会支援
 - 勉強習慣の確立と望ましい先輩・後輩関係の構築
 - 寮生会の積極的な活動への支援
 - メンタルケアと「寮生活成功の秘訣」




今年度の主な行事



(上段から) 入寮オリエンテーション、運動、(下段から) 短期国際留学生歓迎会、学生大会、テーブルマナー講習会



今年度の特徴

- 継続して進めるべき部分
 - 施設・備品の修繕や交換の実施
 - 寮の管理システムの改善
- 寮生指導
 - 各種寮生会行事の成功
 - 1年生への継続した生活指導
 - 寮生アンケートの満足度
- 国際交流の推進
 - 女子留学生(長期)の受け入れ開始、短期留学生の受け入れ経験
 - 寮生と留学生との交流の進展




平成 23 年度「外部有識者会議」報告書

発 行 福井工業高等専門学校

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

電話 0778-62-1111

FAX 0778-62-2597